

## 令和5年10月市長定例記者会見

日時：令和5年10月13日（金） 午後1時30分～

場所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、  
NHK富山放送局、富山テレビ放送、射水CATV、  
庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、財政課長、  
政策推進課長、市民活躍・文化課長

### ○質疑応答の概要

Q1. 予算編成について、市長が重要視している予算配分やシーリングを教えてください。

A1. 今年度から始まった第3次総合計画に掲載されている施策は、果敢に着実に進めていきたい。また、特別枠として設定した子ども子育て支援、デジタル変革(DX)、グリーン化(GX)のさらなる推進に取り組み、質の高いサービスを提供し、「未来世代に選ばれるまち・射水」となるように、投資を積極的に行いたい。特に、子ども子育て支援は国も力を入れている。少子化の流れは2030年までが逆転のラストチャンスとされており、子育て家庭が安心して子育てできる射水市のまちづくり・仕組み・制度の充実を、国の施策と連動させながらさらに重点的・戦略的に図っていきたい。

Q2. 姉妹都市への海外視察の際の旅費に関して、旅費規定条例をどのように解釈しているか。

A2. 外国旅行の場合の旅費規定は、国家公務員等の旅費に関する法律に準じている。市長は、国家公務員等の旅費に関する法律の「指定職の職務にある者」に当たると考えている。これによると、航空賃はビジネスクラスの適用となる。ただし、具体的な運用はフライトの時間、日程、目的、どのような成果を挙げるかを総合的に判断して座席の種類を決定することが望ましいと考える。

Q 3. 姉妹都市や友好都市との関係には、市民の理解の有無が重要になる。市長は友好都市のあり方をどのように考えているか教えていただきたい。

A 3. 射水市と交流がある国内の都市は、合併前の市町村時代からの付き合いである。例えば、長野県の千曲市とは海の都市・山の都市の交流ということで、射水の小学生が千曲市で山の生活体験をし、千曲の小学生が射水に来て海王丸の中での宿泊を通して、海的生活を体験するという、それぞれの地区の特徴を生かす取り組みをしている。また、北海道の剣淵町は旧の大門町と姉妹都市提携をしていた。締結された当時、剣淵町の町長をしていた方の祖父が、大門町出身という縁があった。さらに、北海道は本州から移住や開発に行った方もおり、お互いの特産物の交流がある。11月に開催される「農業産業まつり」では、剣淵町からも特産品の販売などブースを設けていただく。給食では、お互いの食材を出し合うなど食、農作物を中心とした交流が盛んである。

これらは今日まで培ってきた歴史がある。お互いの良さを生かしながら、産業の発展や小中学生の皆さんの多様な体験に繋げていきたい。

国際的な友好都市は、台北市士林区である。元々は、台湾にある土地改良に当たる七星農田水利会と射水平野土地改良区が、以前から姉妹交流をしていた。この縁から、七星農田水利会が地元の士林区長を紹介してくださった。これまでは土地改良・農業分野での技術の交流などについて意見交換をしてきており、さらに広い分野で意見交換していこうと始まった。実際にお互いそれぞれの行政の取組や地域運営のノウハウなど、違う部分を互いに確認し合いながら、それぞれの地域のより良いまち作りに生かすことができるのではないかと考えている。

また、友好提携をしてから、新型コロナウイルスの影響で行き来がなかなかできない状況であったが、児童・生徒たちはオンラインなどで士林区の子どもたち、児童生徒と交流を図りながら、国際感覚を養い、視野を広げた。さらに、多文化共生の推進にも大きく効果があったと考えている。今後、具体的な対面交流を進めながら、スポーツ交流や文化交流、観光、経済分野などにも波及を図ることで、射水市が今後目指していく、交流人口の増大にも繋げていけるのではないかと考えている。

交流していくのが目的というよりは、それをどう生かしていくのか、交流を図りながらお互いにとってWin-Winの関係を作っていくと

いうことが大事であると考えている。

Q 4. ハンドボールチームアランマーレ富山の試合会場について、市外から観戦に来る観客に対し、市をPRするブースを設けているか。また、今年PRブースを設ける予定であるか。市長自身も観戦する予定はあるか教えていただきたい。

A 4. アランマーレ富山を運営する(株)プレステージ・インターナショナルと市は協定を結んでいる。射水市、富山県内外で、相手チームのホームで試合を開催するアウェイ戦の際に、射水市をPRするブースを設けていただいている。今シーズン、新しいシーズンにおいても行っていただく。また、県外からもお越しになれるケースが増えてきているということであれば、ホーム戦での射水のPRも相談をして考えていきたい。

アランマーレの応援については、予定が入っていない限りは行くようにしている。21日は公務が入っているが、その後に会場へ駆けつけたいと考えている。

Q 5. 昨年実施されたパブリックビューイングは今年も実施する予定があるのか。

A 5. 今のところ、具体的な計画はされていない。昨年、県立大学でパブリックビューイングを実施したのは、オレンジキャンペーンで女性の活躍を応援する取組を県立大学とアランマーレ、射水市とで行ったためである。射水市で開催したのは、昨年プレーオフに進出し、大応援団を募集して東京の体育館に行きたかったが、実現が難しかったためである。その他、アランマーレの取組として、介護施設などでパブリックビューイングを実施し、入所している方、スタッフの方にも一緒に応援をしていただいていると聞いている。市民の皆さんからの声を伺いながら、開催のニーズがあれば、アランマーレと相談していきたいと考えている。

Q 6. 予算について、税金などの歳入見込みと物価高騰などの影響を考慮した予算計画について教えていただきたい。

A 6. 予算編成はこれから具体的に行っていくため、税金などについては見

込みになる。中長期の財政見通しでは、令和6年度は約9.7億円の財源不足が見込まれる。さらに、物価高、エネルギー高の影響もあり、9.7億円を上回る財源不足が生じると想定をしている。マイナスシーリングについて、これまでは経常経費や政策的経費は前年度マイナス何%と設定したこともあったが、今回は設定していない。経常経費は、前年度を上限に認めるとしており、物価高の状況などを考えると、数字は設定していないが、削減をして要求をすることになる。

Q6. 歳入不足を補う基金は、財政調整基金になるのか。

A6. 歳入不足を補う基金は、公共施設建設等基金や合併地域振興基金を活用する。財政調整基金は、災害時などの突発的な対応が必要な場合に利用したい。